

AA

日本ニューズレター No.93

グループの棚卸し

## 「AAグループ……すべてはグループから始まる」

37ページから39ページ 40ページから41ページ

多くのグループは定期的に「グループの棚卸しミーティング」を開き、自分たちのグループが、回復に向けて提案された12のステップを通してアルコールの回復を助けるというAAの基本的な目的をどれほど果たすことができたかを評価している。グループの中には12の伝統に一つずつ照らし合わせながら、伝統に表された原理にどこまで沿うことができたかをチェックして棚卸しを行っているところもある。

AAの分かち合いの中から引き出された次のような質問は、十分に情報を伝えられたグループとしての良心に語り、結論に辿り着くのに役立つものと思われる。これらの質問のほかにも、グループで独自に何点がチェック項目を付け加えると良い。

1. グループの目指す基本的な目的とはなにか？
2. メッセージを運ぶために、グループが今以上に努力できることは？
3. グループはさまざまな背景のアルコールを引きつけることができるか？
4. 新しいメンバーたちはグループにうまくとけこんでいるか。去って行く人のほうがはるかに多いのではないか？ そうだとしたら、なぜだろうか。グループとしてわたしたちにできることは？
5. スポンサーシップがどれほど大切かを力説しているだろうか。本当にうまく説明できているか。もっと良く理解してもらうにはどうしたらよいだろうか？
6. グループのメンバーのアノニミティを守ることに気を配っているだろうか？ ミーティング場いがいの場所でAAメンバーのアノニミティを守ることは？ ミーティング場で分かち合われた個人の秘密をちゃんとミーティング場の中に残して帰っているだろうか？
7. 皿洗いや掃除といった仕事を果たすことも含め、いろいろなサービスは12番目のステップを行う上でたいへん重要であること、そしてグループにとって大変価値があることだということを、メンバー全員に時間をかけて説明しているだろうか？
8. ミーティングで話をしたり、またいろいろなグループ活動に参加するチャンスは、メンバー全員に与えられているだろうか？
9. 自分たちの係を選ぶ際、人気コンテストに票を投じるのではなく、重い責任を伴う役割を引き受けてもらうのだということをおぼえて投票しているだろうか？
10. 自分たちのミーティング場をできるだけ魅力あるものにするため、できるだけ努力を払っているだろうか？
11. 回復、一体性、サービスという三つの遺産であるAAの目

的に向けて、自分たちのグループもその目的に向けた役割をきちんと果たしているだろうか？

12. 地域社会の中の専門家 医師、聖職者、司法関係者、教育者、また、助けを求めてきたアルコールと最初に接する立場の人 のところに、AAのメッセージを届けるため、最近グループで行ったことは何だろうか？

13. グループは伝統7(注: すべてのAAグループは外部からの寄付を辞退して、自立しなければならない)の責任をどうはたしているだろうか？

## グループの問題について

グループの中で数々の問題が生じるというのは、メンバー間の異なる意見が、健康的で望ましい形で表明されている証しだといえる。ステップ12で言われている“自分のあらゆることに、この原理を实践”するまたとないチャンスが与えられたということである。

グループの問題というと、たとえば、スリップをした人にグループはどう対応すべきか？ だらけた気分でのミーティングに参加してくる人を何とか盛り上げるには？ もっと多くのメンバーにグループの雑用を引き受けてもらうには？ アノニミティを破ったメンバーにどう対処すべきか？ “13ステップ”に熱をあげているひとは？ グループが取るべき方法については何でも知り尽くしているという“死にかけの執事”のオールドタイマーから身を守るには？ 一方、グループが板ばさみとなっている問題の解決に向けてオールドタイマーたちの経験をもっとひきだすには？ ……といったAAの共通の疑問にまつわるものが多い。

グループで生じる問題のほとんどすべてに解決の方法はある。それは普通、十分に情報を伝えられたグループの良心を働かすことで、解決は得られる。大切なのは、ユーモアのセンス、頭を冷やす期間、忍耐、礼儀をもって接すること、耳を傾け待っててみようという姿勢、それに公正な感覚と、“私たちを超えた大きな力”への信頼をプラスしたものである。それは、法律尊重主義の議論や個人に非難よりもはるかに効果があることを、みんなは認めている。

「AAグループ」のほんの一部であるが読んだ人も、読んでいない人も、持っている人も、もう一度目を通して見て欲しい。自分が、今飲まない生き方ができている奇跡の基を確認しようではないか。

そこにミーティング場があったから、ミーティングを開いてくれたメンバーがいたから、さかのぼれば、ビル・Wとドクターボブの出会いから67年もの時を経て、脈々と伝えられ続けてきたメッセージがあったからだと思う。この喜びと感謝を、今もなお苦しんでいる人たちへメッセージとして伝えなければやがては自らが減んで行くのであろう。

それぞれのグループの経験をお知らせいただければ幸いです。

## 常任理事に就任して

### 全体サービス常任理事 広報担当 高橋（麗）

常任理事に就任してはや4ヶ月が経とうとしている。評議会に出席したものの、それ以降これといって眼に見える形で役割を果たしていない。長い間、文書・出版関係の役割をさせていただいていたので広報という役割が、何を目的に、誰を対象に、どのようなことをするのか具体的に見えてこなかった。もちろん「サービス・マニュアル」をあらためて読んでみた。「広報ガイドライン」も読んだ。現在、翻訳中の新しい「サービス・マニュアル」にも未定稿ではあるが目を通した。しかし、具体的には見えてこなかった。

一つ見えてきたことは、前任者の報告などを読んでいるうちに時代は動いているということだ。日本のAAを取り巻く状況が変わりつつあるのではないかと思えるのだ。例をあげるなら、メンバーシップサヴェイが定着した、インターネットのホームページを見てミーティングに参加した仲間にも始めて会うことができた、全国ネットのTVでAAを取り上げた番組が何度も再放送された、アメリカ・カナダのA類常任理事ヴァリアント先生をお迎えしての国際シンポジウムが多くの関係者の皆さんなどを集めて開催された、等々、総じて言えば日本のAAが社会的に認知される足掛かりの第一歩の手前までようやくたどり着いたのではないかと思える。

日本にAAが伝播して以来の積み重ねを振り返ると先ゆく仲間に対し敬意という言葉だけでは済まされないものを感じる。

だがここで、思ったり、感じたり、批評を述べたりしているだけでは、あるいは思いつきで行動してはいけない状況に自分が置かれていることを知らされた。常任理事という役割に就いたのだ。先行く仲間の積み重ねをふまえ、現在の状況を鑑み次の一歩をどう踏み出せばいいのだろうか。それが冒頭の具体的に見えてこないということなのだ。

そのようなある日、評議会が終わってからしばらくして、「第16回ワールド・サービス・ミーティング最終報告書」が手元に届いた。46ページで私の目は止まった。イタリアのWSM評議員が書いていることを日本のAAにアレンジすると「ミーティング場を使わせてくれる管理者にBOXを毎月、手渡している」ということになるのだろうか。

もちろん、日本でも一部のグループあるいはメンバー個人が行っていることを知らないわけではない。それにBOXをミーティング場の管理者に手渡すということはグループが主体となって行うことで、仮に提案をすることはあっても常任理事として指示するようなことではないだろう。

私の目が止まったのは、AAという存在を知っているもの内容までは詳しく知らないという専門家ではない方々に、今少し、AAのことをよく知ってもらうことならできらうし、限られた予算の中で有効なのではないだろうかという点だった。当たり前といわれればその通りだし、何を今更といわれるかもしれない。しかし、力みかえって大上段に構える必要は何もないことに気付いたのだ。

広報は直接にまだ苦しんでいるアルコールにメッセージを運ぶことはしないが、AAのプログラムを一般の人に誤りなく知っていただくことで間接的にメッセージが伝わるよ

うにしていくことだろう。

一般というのは大きすぎてとりとめのもののように感じていた。だが、身近で全体サービスでしかできないこともあるのだ。例えば、先日の国際シンポジウムでは新聞記者の方が2名ほど参加していた。先方からAAに興味を持ってくれたのだ。この方々にどのようなフォローアップをすればよいのだろうか。シンポジウム開催前の記事を読むとA社の記者はAAをあまり理解していないように見えた。誤りなくAAのプログラムを知ってもらうにはやはり何らかの行動が必要と思われる。

矯正施設へのメッセージもいきなり押しかけてすぐに始まったわけではない。そこに至る道のりがあったのだ。目に見えない小さなことからかもしれないが、手近にあることを一つ一つ大事にしながら、4年間の任期を全うしていくしかない。

ちなみに、第16回ワールド・サービス・ミーティングのテーマは「AA - 私たちの将来は私たちの責任」だった。



## 全国の仲間の皆さん

### 私に知恵と力と勇気をお与えください」

#### 西日本圏選出常任理事 工藤

AAの名前を初めて聞いたのは熊本精神病院に入院中だった。私は生まれ育った環境から気が小さく弱い。幼い時からまわりの人たちの顔をうかがいながらいい評価をしてもらおう、好かれよう、そればかり考えて生きてきた。育ちからくる劣等感や気疲れからの開放感を求めて呑んだ。自分中心の世界を作るため自分に自信をつけるために呑み続けた。やがて酒のドレイになっている自分に気づき、酒を飲むために何でもする自分に驚く。飲んで行っては行けない所に飲んでいくことが多くなり、節酒しようやってみたが一日ももたない。こんな意志の弱さに罪悪感や劣等感に苦しむ。転職を繰り返すたびに条件の悪い所へと墮ちてゆく自分。家庭は修羅場化とし崩壊寸前だ。最後は身体をこわし(頭も)入院する。この病院でAAメッセ-ジをいただく。初回メッセ-ジは強烈だった。ミーティングに出るため会社を変えろ、住まいを変えろ、断酒に邪魔になる家族と別れる、でも2度目に出た時、止めるためならなんでもする気になっていた。この入院中に自分自身のために止めることと、12ステップを使って回復のプログラムでの生き方について教わった。退院後は自分の生活サイクルを断酒優先にするよう努力しそうしてきた。昔読んだケネディ伝記の中で、彼が大統領就任の前教会に行った時のこと、歴代の大統領は神に向かって「私は今度大統領になります。国政を司る私をどうか神様お守りください」と神からの加護を求めました、ところがケネディは神に向かって「神様どうか私に困難と戦う勇気をください」といっています。私はこの言葉から神様、アルコールを断とうとしている私に努力する力と勇気をください、と読み替えてきました。もうひとつ就任挨拶でケネディは「アメリカという国があなたたちになにをしてやるかではなく、あなたたちがアメリカという国になにができるかだ」という台詞です。つまり生命を救われたAAにそれ以上は望まず、AAに対してどのような恩返しができるのかと読み替えることでした。AAのためになにができるのか、献金、メッセ-ジ等、あら



## 日本語ミーティング in カリフォルニア



昨年末にニューヨークGSOから発行されたボックス459（アメリカ・カナダのグループ、メンバーへ向けたニュースレターの名称）に掲載された記事を紹介する。この原稿を送ったメンバーは日本のAAのサービスに多大なる貢献をしてくれている。彼の通訳の能力は非常に高いレベルを持って、日本のワールドサービスミーティング評議員を助けてくれている。また、サービスの経験も惜しみなく分かち合ってくれ、感謝の言葉が見つからないほどである。先日、機会あってこのミーティングに参加することができた、とてもステキなミーティング会場である。サンフランシスコに行く機会があれば是非参加して見て欲しい。

2001年5月27日、北カリフォルニアで第一号（ロスアンゼルスでは以前より日本語ミーティングが開かれている）の日本語グループが、サンフランシスコから60キロほど南下したマウンテンビューの教会でいよいよスタートを切った。この日「進歩グループ」には5人のメンバーが集まったが、このグループを始めた、北部沿岸地域の書記も務めるダグ・Gによると、「進歩」とは、“プロGRESS”の日本語訳であり、一步一步前進を続けることこそだれもが望んでいることだからと、この名前をつけたのだという。「やっとここにたどり着いた日本人の新しい人のことを考え、このミーティング場に入ったら僕たちも日本語しか話さないことにしました」

一見なんの関連もないいくつかの出来事がいま一つ、ついに「進歩グループ」の誕生へと至ったのだが、まずは、話はダグの中学時代にさかのぼる。中学2年のとき、交換留学生として東京にやってきたダグはそこで勉強をし、たちまちのうちに日本語を身につけた。日本語が堪能なおかげで、後年、カリフォルニアの企業に就職したダグに日本への転勤が命じられた。転勤先は東京から160キロほど西の地方だった。「そのときから本当に酒がひどくなりました」ダグはふりかえる。「ニュージャージーの自宅に戻ったものの、たちまちのうちに底をつき、1987年の10月にアルコホーリクス・アノニマスにつながりました。それから10ヶ月たって、カリフォルニアに戻ったのです」

それから7年後、ダグは、北カリフォルニア地域で“任されたしもべ”として役割についているメンバーから、シリコン・バレーで日本語ミーティングをやってみないかと勧められた。「じつにたくさんの日本企業がシリコン・バレーに進出しています。実際、僕の会社にも、飲酒運転でつかまり、裁判所からAAミーティングに行くよう命じられ、結局は日本への転勤命令が出されて、一度もAAのメッセージを耳にすることなく帰国してしまったという人が何人かいました。そのころ日本では、全国で毎週250回ぐらいのミーティングが開かれていて、女性クローズドや、ヤング、パソコンミーティ

ングがあるのは知っていましたが」そのころのことを振り返りながら、ダグはさらに「そういったことがかなり気にはなっていたものの、今もそうなのですが、そのときもAAのサービスにかなり熱心にかかわっていたので、何もないところからミーティングをスタートさせるほどのやる気を自分のなかで奮い起こすことはできなかったし、そのための時間も取れませんでした」

4月のある日のこと、ダグはあるミーティングでスピーカーを頼まれ、自分の話をした。残りの時間は全員の分かち合いになった。「そのときアキという仲間が話し始めました。日本ではアルコールのことがほとんど理解されていない。でも治療を受けていたときにAAを知ったおかげで、数ヶ月だが飲まないでいられる、と。アキは僕がベイエリアで初めて出会えた日本人のAAメンバーでした。彼の話聞きながら僕は自分の名刺を取り出し、裏に日本語で『お電話ください。日本語のビッグブックをお渡しします』と書いて彼にそっと手渡しました。僕のメモを見て、彼はぱっと顔を輝かせました。ミーティングのあとで一緒に話をしました。そこに、実は僕も日本語が話せるんだと言いながらグレッグも加わりました。AAの伝統3が僕の頭によみがえりました。『・・・飲まずに生きたいと願うアルコホーリックが2,3人集まれば、グループとしてAA以外のどんな団体にも加入してないかぎり、自分たちのことをAAグループと名乗ることができる』。そのとき僕は、それまでずっと考えていた日本語グループを始める時が、ついにやってきたのだと感じ取ったのです」

「進歩グループ」は、今、やっとよちよち歩きをはじめたばかりだという。ダグは「日本語グループがあることを知ってもらうために、チラシをつくり、日本人がやっているスーパーや、神社のような場所に、もちろん、許可をもらって貼らせてもらっているところです。チラシには日本語で『ご自分の飲み方に不安がありますか？ だとしたら、アルコホーリクス・アノニマスに来てみませんか』と書いてあるだけの簡単なもので、その下に小さく、グループ名とミーティングの時間と、会場への案内図も入れています。ふつう、スーパーの掲示板は一週間しか掲示してくれないため、僕は毎週スーパーに行って、貼り直してくるのだけれど、おかげでサービスをやらせてもらえます。あとは、このあたりでは日本語新聞が毎週発行されていて、そこが無料で、このような公共的な活動の案内を出しているのだから、それにも掲載してもらっています」

グループが始まって間もないころのことだ。ダグの話を聞こう。「グループの会計のグレッグが日本人の奥さんといっしょに休暇をとって日本に行くことになりました。グレッグはわざわざ東京にも寄り、JSOに行って、日本語のAAパンフレットを送ってくれたJSOに感謝して、僕たちからの初めての献金をしました。これはあくまでも僕たちの献金箱に入っていたお金の一部であり、わずかな人数しかいないけれど、僕たちの感謝の気持ちでした。まさに金銭と霊性が交わるころが献金箱ですからね」

BOX 459 2001 HOLIDAY ISSUE より転載

## AA日本ニュースレターNo. 93

編集・発行：AA日本ゼネラルサービスオフィス（JSO）〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 4F  
TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ <http://www.cam.hi-ho.ne.jp/aa-jso/>